

CALCON 2003 に参加して

第 58 回カロリメトリー会議が、日本熱測定学会との共同開催として、2003 年 7 月 27 日－8 月 1 日の会期で、ブリガムヤング大学ハワイキャンパスで行われました。12 カ国から 120 名の参加があり、CALCON としては例年に比べると盛況だったとのことです。私は CALCON に参加したのは今回が初めてであり、むしろ学会全体のアットホームな雰囲気に関心を覚えました。なお、他の報告にもあるとおり、今回の会議で松尾隆祐先生がハフマン記念賞を受賞されました。学生時代にずっとご指導頂いた身としても、また後進の一研究者としても大変嬉しく思います。また、学生に与えられるジオーク賞の 4 名の内の 1 人に当センターの池内賢朗君 (D2) が選ばれ、これもまたセンターのメンバーとして嬉しい出来事となりました。

会議で行われた研究発表は、全て熱測定という共通点を持ちつつも、その対象は無機物から生体物質まで多岐にわたっていました。自分の専門以外の分野の話を聞ける絶好の機会であり、話半分しか理解できないことも多々ありましたが、大変勉強になりました。ただ、「熱測定」でのレポートでも問題点として指摘されていましたが、英語によるコミュニケーション能力不足から日本人だけが集まりがちなこと、質疑応答時に日本人からの活発な質問が少ないことは、私にも大いにあてはまることであり、今後、私自身の問題として改善していかななくてはならない点です。

私は 3 日目のポスターセッションで発表を行いました。私のこれまでの経験を振り返ると、どういうわけかポスターの掲示場所に会場の端の方を指定されることが多かったのですが、今回もその例に漏れず、一番端で掲示することになりました。そのためかどうかわかりませんが、あまり多くの人に目を留めてもらえなかったようでした。それでも何人かの海外の研究者の方が話を聞きに来て下さって、拙い英語ながらも何とかコミュニケーションをとるのはなかなか楽しいものでした。

会場となったブリガムヤング大学ハワイキャンパスは、日本の大学とは異なり、ずいぶんゆったりとした雰囲気のキャンパスでした。私が学会全体をアットホームに感じた理由は、このキャンパスの雰囲気にもあったかもしれません。ただ私にとって唯一の難点は、大学のバックになっている宗教の関係で、キャンパスではコーヒーが（アルコールも）飲めないことでした。休憩時間や昼食後に甘い、かなり甘いデザートが出されるのですが、コーヒーが欲しいと何度思ったことでしょう。しかし振り返ってみれば、そのような重大ではない、しかし印象に残る少々不便さは、私が感じた学会全体のアットホームな雰囲気とともに、CALCON 2003 への参加の思い出を私により印象付けることになっているような気がします。

(崎里直己)